

序 調査の概要

(1) 調査の目的

日進市では、平成 23 年度から 10 年間のまちづくりの指針となる「第 5 次日進市総合計画」で設定した将来都市像「いつまでも暮らしやすい みどりの住環境都市」を目指してまちづくりを進めています。

この調査は、多様な市民ニーズを把握するとともに、総合計画に掲げる各施策の進行管理及び評価を行うため、定期的を実施していきます。

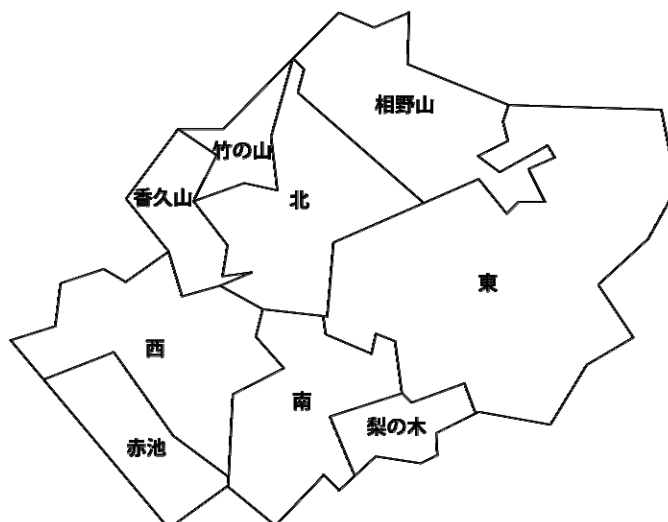
(2) 調査の概要

本調査の概要は次に示すとおりです。

- ・調査対象：日進市在住の 18 歳以上の方（平成 26 年 10 月 1 日現在）
- ・抽出方法：無作為抽出
- ・調査方法：郵送配布・郵送回収
- ・調査時期：平成 26 年 10 月
- ・配布数：3,000 票
- ・回収数：1,434 票
- ・有効回収数：1,434 票
- ・有効回収率：47.8%
- ・小学校区別回収状況

小学校区	配布数	有効回収数	有効回収率（%）
西小学校区	438	184	42.0
東小学校区	372	168	45.2
北小学校区	370	175	47.3
南小学校区	491	224	45.6
相野山小学校区	173	85	49.1
香久山小学校区	452	192	42.5
梨の木小学校区	288	137	47.6
赤池小学校区	285	133	46.7
竹の山小学校区	131	64	48.9
全体	3,000	1,434 (回答なし・校区不明 72 件含む)	47.8

小学校区区分図



(3) 図表の見方

- 図中の構成比率(%)は、小数点以下第2位を四捨五入して算出しました。そのため、複数回答はもちろんのこと、単数回答の場合でも合計は必ずしも100.0%になりません。
- 一部の作図については、クロス集計上の表側の「回答なし」は省略しています。
- 表、グラフ等の見出しおよび文章中の選択肢の表現を、趣旨が変わらない程度に簡略化しているものがあります。

(4) 標本誤差の範囲

市民意識調査を実施する場合、本来は全市民を対象とすることが望ましいですが、実際には適当な人数を選んで精度の高い調査結果(全数調査の結果に近い調査結果)を得ることになります。

今回の場合、多くの市民の皆様のご協力により1,434人からの回答を得ましたが、この結果がどの程度精度をもった回答結果であるのかは、アンケート調査結果に対する標本誤差を算出し、その誤差範囲により検討することができます。

・標本誤差の算定式

$$\sigma = k \sqrt{\frac{M-n}{M-1} \cdot \frac{p(1-p)}{n}}$$

M : 母集団
 n : 有効回収数
 p : 結果の比率
 k : 信頼度による定数
 σ : 標本誤差

※信頼度を95%とすると、 $k=1.96$ となる。

・標本誤差

結果の比率 小学校区	50%・50%	40%・60%	30%・70%	20%・80%	10%・90%
全体	±2.56	±2.51%	±2.35%	±2.05%	±1.54%